

グラフィックサービス



発行：一般社団法人 日本グラフィックサービス工業会

● 巻頭企画

小規模印刷会社のSDGsの進め方

目指すはジャグラの成功事例！/ (株) みやもと (栃木)

——日印産連・事例発表会より①

● 特別企画

2019年 デジタル印刷市場の現状①

——日印産連・調査報告書より

● 連載

需要創出を考える②

——(株) イナミツ印刷 (東京・港) さんの事例

版画と謄写とこれから①

——Atelier 10-48主宰/版画家 神崎智子

● NEWSとお知らせ

新型コロナウイルス対策について

4.24第一回理事会で4～6月の会費減免を決定

2019年度JaGra作品展中止のお知らせ

Happy
Mother's
Day
お母さんありがとう

GS
No.822
2020
05

電子版無料公開中！
スマホでも本誌が読めます
公式HPで本誌PDF版を公開中。
紙媒体より1週間早い毎月中旬に
ご覧いただけます。バックナン
バー閲覧もここから！



<https://www.jagra.or.jp/>

なかむら通信

読者の皆様へ



ジャグリストの皆さん、こんにちは。会長の中村耀です。日頃よりジャグラの活動へのご理解・ご協力をいただき感謝申し上げます。コロナ禍による経済活動停滞とともに仕事が減少し、日々苦勞をされていることと思いますが、こうした時こそ“強いジャグラ”の底力を発揮していきましょう。

さて先般、4月開催の理事会を感染拡大防止の観点からWeb会議としました。小さなモニターで30名近くの理事の方の表情まで見て取るのは非常に困難でしたが、報道にあるように私たちには新たな生活様式が求められています。この経験を活かしながら、ジャグラの運営に関してもより効率的な仕組みを作っていければと考えています。

新型コロナウイルスという目に見えない脅威への対応に際し、3.11東日本大震災時の放射線汚染が思い出されます。9年前も関東・東北地域で目に見えない放射線の影響に危機感を募らせ、風評被害も長く続きました。今回の新型コロナウイルスはそれ以上に私たちの生活、そして事業活動に多大な影響を及ぼしていますが、これまでのように何とか知恵を出し、力を合わせて乗り切っていければと思います。

CONTENTS

●巻頭言

01 悠々三昧

—— 関複地協 会長 / 関東複写センター(協) 理事長 斎藤 隆正

●巻頭企画

02 日印産連・地方創生事業事例発表会より①

小規模印刷会社のSDGsの進め方

目指すはジャグラの成功事例！

—— (株)みやもと(栃木) 代表取締役社長 宮本 誠

●緊急のお知らせ(新型コロナ関係)

08 新型コロナウイルス対策について 助成金・融資情報、会員向け相談窓口、テレワークについて^{ほか}

08 ジャグラ事務局テレワーク中

12 補助金のひろば⑥ 新型コロナ関係の助成金・融資情報

●特別企画

14 2019年 デジタル印刷市場の現状① 日印産連の調査報告書より

●連載

24 需要創出を考える②⑩ 社員の特技を活かして実現した『似顔絵缶バッジ』

—— (株)イナミツ印刷(東京・港)さんの事例

26 版画と謄写とこれから①

—— Atelier 10-48主宰/版画家 神崎 智子

●NEWSとお知らせ

18 理事会&委員会通信

4.24第一回理事会で4～6月の会費減免を決定

23 2019年度JaGra作品展中止のお知らせ

29 ジャグラBB HOTNEWS

22 ジャグラ緊急連絡網

23 コラム

28 事務局日誌と今後のスケジュール

月刊

グラフィックサービス

発行 一般社団法人 日本グラフィックサービス工業会

悠々三昧

関東複写地方協議会 会長
関東複写センター(協) 理事長

斎藤 隆正



代表権を離れて8年が経ちました。先達に感謝して日々の生活があります。仕事面では本当にお得意様に恵まれました。指導者として手取り足取り教育していただきました。30歳代になって半人前の経営者の端くれとなり、従業員の教育も満足にできず、お得意様にも生意気な態度で応対して、情性で仕事についておりました。企業の中のコピーセンターを任されていましたが、仕事が来るのが当たり前の日々でした。企業のコピーセンターとして、営業しなくても仕事は流れてきましたので、納期だけを守って消化していただけでした。大量に受注した時も納期面でこちらの都合を当たり前のように話して、お客様の仕事の厳しさもわからず、殿様商売の見本みたいな仕事でした。コピーと加工の単純作業の日々で仕事の達成感などありません。頭を使わなくても複写機が勝手に仕事をしてくれますので、あの時は仕事を舐めていました。

ある時、お得意様の担当者が代わり、途端に今までの仕事が一変したのです。海外事業部で経験を積んだ方で、仕事のやり方の甘さを指摘され、責任者として言い訳にも追われ、クレームの日々でしたので、とんでもない人が来てしまったと毎日会社に行くのも嫌になり、やる気が全くなくなるほどでした。ミスコピー、配布間違い、原図の破損、納期遅れの日々でしたが、その担当者は、クレームの原因と改善を愛情をもって指導教育してくれたのです。「お前、クレームは宝物だぞ!!」と毎回叱咤激励され会社を経営するイロハのイの字を教えてくださいました。

お客様である担当者の枠を超えた熱血漢の愛情を私に注いでくれたので、今の自分があるのは、その方のお陰ともいえます。大企業には色々な方が仕事しております、その中で運よく愛情を持った方と出会えたことは奇跡中の奇跡だと思って感謝を忘れません。

また、ご縁があり仕事の関係のお得意様の役員の方から「謡(うたい)」の稽古やっているから見においてと誘われ、軽い気持ちで座って聴いていたのですが、いきなりその日に入門することになったのです。毎週水曜日夕方6時から稽古が始まるのですが、正座をさせられ声を出すどころの話ではありません。足が痛くて20分も持たないのです。はじめは我慢して稽古してればいいやと付き合っていました。

そんな気持ちだったので、全く身の入らない稽古でした。しかし、稽古仲間が会社の定年と本人の都合で一人やめ、二人やめ、三人やめ……、とうとう6人やめて私一人が残ってしまったのです。先生がかわいそうになり、生徒は私一人でしたが稽古を続けました。それから謡の本当の稽古が始まりました。稽古は声を出し切りますから、終わるとめまいがし、疲れます。「今度やめよう」、「今度やめよう」といつも稽古が終わる度に思います。年に数回の発表会があり、人前でやるのですが、事前の稽古量が結果に出ます。稽古と練習に努力しないので当然褒められません。足はしびれるし、人前で下手な声を出すので緊張から汗でびしょりです。

こんなつまらない謡、なんのためなのか、とにかく16年稽古してもまだ身に入っていません。ただ終わった後のお酒の美味しいこと、この誘惑を断ちきることができず今日まで来ております。開き直って悠々三昧で下手でも楽しい趣味として、また水曜日の夕方が始まります。こんな道楽ができるのも、複写事業にかかわらせてもらったおかげです。恩返しはできませんが、できることを行動して、業界発展の夢とロマンを胸に刻み、日々大事に活動していこうと思います。

経営的には前の時代には戻れませんが、新しい時代の始まりを経験できる時代が来ました。夢とロマンをもって、その時代を楽しんでいきたいと思っています。

小規模印刷会社の SDGsの進め方

目指すはジャグラの成功事例！

(株)みやもと (栃木)
代表取締役社長 宮本 誠



事例発表する
宮本社長

ジャグラなど印刷関連団体 10 団体で組織する（一社）日本印刷産業連合会は、去る 2 月 10 日、東京の印刷会館において、『じゃばにうむ 2020 印刷産業の地方創生事業事例発表会』を開催し、印刷会社が取り組む地方創生・地域活性化の事例発表を行いました。全国から選りすぐりの 6 社が、それぞれの地域で自社の強みを活かして展開している事例を披露し、ジャグラからも栃木の(株)みやもとさんと大阪のハウユウ(株)さんが発表を行いました。前号のハウユウさんに続いて、みやもとさんの事例を紹介します。

【じゃばにうむ / Japaneumn】https://www.jpfi.or.jp/topics_detail6?id=184
日印産連が構築する印刷産業界のインバウンド事業およびインバウンドニュースを扱う情報共有・情報交流 Web サイトのこと。印刷産業各団体・企業のリソースを中心に、印刷会社が取り組む地域連携や産学官連携によるインバウンド事例を紹介しながら、印刷産業の事業領域の拡大をめざす。日本の地域産業の活性化と同時に印刷産業の新たな価値創出を図り、事業領域拡大をめざす手がかりを発掘する。「じゃばにうむ」とは、Japan Printing Alliance News Columns を縮めた造語。

印刷業の業態変革

「業態変革」と印刷業界が言われ続けて何年が経つだろう。私は現在 51 歳。業界のスタートは、東京でのデザイン業務。平成が始まりバブル崩壊と言われた頃だ。当時はデジタル化への夜明け前。書体に Q 数、色指定もアナログで覚え、カッターも握り写植にも触れていた。

未来を拓く箱と思い、個人的にマッキントッシュを購入していたが、数年後の印刷業界の潮流は DTP へ。効率化と設備の容易さ、カラーカンパの解りやすさで印刷物の需要も上がり、早々に導入した会社は相当な恩恵を受けたと思う。しかし DTP の功罪は一般企業や家庭にさえ印刷機（プリンター）が設備され、印刷は印刷会社ではなくても作れる物になってしまった。

2008 年リーマンショック。私は栃木で商業輪転印刷会社の代表として四苦八苦していた。オフ輪は不況となっていたが、当社は、チビ輪と言われる B3 輪転機を 4 台所有し、「小ロット多品種」と言われ始めたチラシ需要に即した設備で、過去最高の業績となっていた。しかし、WEB メディアに印刷通販会社の台頭、製紙業界の再生紙問題に、新聞折込の水増し問題なども重なり、当社のチラシ需要も急降下、厳しい時代の幕開けとなった。

ずいぶんと暗い話になってしまったが、「業態変革」

とは、現況の打破と思うので、今回の事例発表の背景として書かせていただいた。

リーマンショック以降は、印刷生産量は年々減っていったが、新たな取り組みによって知識が増えて行く事は、私自身楽しくもあり、社員の成長にも繋がったと思う。しかし、また新たな壁、コロナショックが立ちはだかった。

私はオフセット印刷については、「下り坂をそろそろと下るように」と思っていたが、どうも傾斜がキツくなってしまった。ウィルス感染との攻防は「未来の話」だったが、これからは「ある事」として付き合わなければならない、接触をともなわない WEB 需要が更に進み、印刷物の減少が懸念される。

現時点でのコロナ対策の流れを見ると、テレワークにネット会議、5G の早期導入など、以前から推進されていた事に加速が付いただけにも見える。また、非常時に心温まる話を聞くと、今回の題材である「SDGs＝社会性」は、さらに必要不可欠になってくるだろう。

前段がずいぶん長くなってしまったが、リーマン以降の業績悪化により、設備投資に頼らなかつた当社の 10 年間の「変革」と「SDGs の取り組み」をご紹介します。

CSR に SDGs ?

まずは、SDGs の概略を念のため。SDGs とは「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称で「2015 年に国連サミットで採択された、2030 年までに達成する 17 の目標」となる。私も数か月前まではエスディージーズと読めないレベルだったが、経営セミナーなどで説明を聞くうちに、「キャッチーなアイコンで、女子受けしそうだし、ちょっと勉強してみよう」が、当初の印象であった。しかし資料を読み込んでいくうちに「説明はややこしいが、当社でも行っていることだ」と、思えるようになってきた。

当社はいわゆる CSR（企業の社会的責任）活動を以前より行っていた。冒頭でも話したようにリーマンショック以降、会社には悲壮感が漂っていた。「何か新しい事、何か将来役に立つ事を始めないと」との思いから、設備に頼らずに会社の成長を目指したのが CSR 活動になる。世界の潮流として CSR から SDGs に移行中であるが、真面目で直向きで、グラ

小規模印刷会社の SDGs の進め方



SDGs の 17 のアイコン

フィックに造詣の深い私達にとっては、SDGs の理念やカラーアイコンを使つての啓蒙活動は、印刷業界人に向いている事と思う。SDGs の詳細については、私の説明よりも数多の WEB サイトがあるので、まだご存じで無い方は一読を。

10 年間、毎月開催の無料セミナー

target 4-4
『働く技能を備えた若者と成人の割合を増やす』
target 17-1
『全ての人の能力を強化し社会経済の関わりを促進』

初めに当社の CSR 活動の根幹となり、今年で 11 年目を迎えた、一般開放の無料セミナー『印刷工場課外授業』のご紹介。

印刷工場課外授業は、2010 年に「社内教育の一環」として印刷関連メーカーさんへ、講師の依頼をする事から始まったが、「せっかく栃木まで来て頂くならば、社員だけではなく、当社のお客様である広告代理店やデザイナーの皆さまもお誘いし、ついでに、広く一般の方にも、お声掛けしてしまおう！」と考えてのスタートだった。1 回目の講演は、DIC さんに「ユニバーサルデザイン」の講座を行って頂いたが、予想を超える 200 名近くの応募となり、好評なスタートとなった。その後も 1 年を通し、各企業様のご厚意で、毎月好評のセミナーを開催することが出来たが、セミナーの開催にも不景気の波は押し寄せ、講師派遣をいとわなかった企業さんも、2 年目からは渋い返答になってきた。ならば、「私達が世の中の皆さんに、お伝えできることは？」とのコンセプトで、自分達が講師となって開催することに変革していった。



SDGs 講座での記念撮影



「青少年健全育成推進事業者」として
宇都宮市から表彰を受ける宮本社長

質の高い教育
みんなに



「やさしい日曜日」ジャグラ栃木のメンバーと常連の出店者



新聞折込チラシ『うつのみやシニア通信』

自前の講座では、デザイナースタッフの、手書きPOPにチラシの作成教室、カメラマンの写真教室などの講座を始め、カッティングマシンに3Dプリンター、活版印刷機などの、自社の設備を使った体験会も行った。夏休みに親子向け企画として開催している『オフ輪工場の見学会』には、毎年100人以上の親子が集まり、他にも絵日記にイラスト教室など、子供向けの教室も充実させた。また、今でもDICさんには講師を派遣して頂いており、ユニバーサルデザインやカラーマーケティングの講座を開催いただき、自分達でも同様の講演開催へと昇華させている。また、昨年末には連続して『SDGs 講座』を開き、11月には、RICOHさんと宇都宮CSR協議会の協力にて開催。12月には、DICさんと宇都宮市の協力を得て、めでたく丸10年120回目の開催を行い、私達のSDGsへの理解も深まった。

最近ではESG（環境・社会・ガバナンス）投資基準の浸透が進む上場企業には、こうした社会貢献活動は必須項目となってきているので、再度の広がりが出ている事と思う。先日は、宇都宮市から『青少年健全育成推進事業者』の表彰を頂いたが、お付き合い頂けている企業様あってのことである。

また、企画運営する当社の企画制作部では、SDGsの主旨や背景を理解するためにも「CSR 検定」に挑戦してもらった。私もスタッフと共に勉強し、思った以上に難しかったが、めでたく10名での合格となり、今後の活動の自信にも繋がった。

『印刷工場課外授業』を10年も活動していると、延べ人数では4000人近くの方に参加いただいた事になる。私が覚えていない方からも、「以前、宮本さ

んに手書きチラシ教室で褒めてもらって、起業する勇気が湧きました！」などと言って頂き、お仕事の依頼を受けることがある。また、セミナー参加をきっかけに入社したスタッフもいて、そうした循環が出来てきたことは素晴らしい結果になったと思う。

みんなでつくった街中活性化イベント



target 11-A
『都市部の良好な繋がりを支援する』
target 17-1
『全ての人の能力を強化し社会経済の関わりを促進』

続いての紹介は、ジャグラ栃木県支部と当社で行っている街中活性化イベント『やさしい日曜日』。3月の開催で33回目を迎えるはずだったが、残念ながらコロナ対応として延期となった。当イベントを始めた10年前の宇都宮中心街は、郊外のショッピングモールやアウトレットショップに押され、週末の賑わいは薄れていた。

幼少時の中心市街地は商業施設が集中し、週末のモール街の混雑は、大人のお尻ばかりを覗いているような混雑だった。映画を観たら百貨店のお子様ランチ、その後は屋上遊園地で過ごすのが、週末の楽しみだったものだ。一時は渋谷に次ぐ百貨店密集地と言われた宇都宮の市街地だったが、商業施設は郊外のショッピングモールへと変わっていった。

私達がイベントを開催している宇都宮の中心地「二荒山神社前広場」では、各種イベントが開催され、一時期の寂しさよりは賑わいも取り戻している。当イベントには毎回3000人位の集客になるが、そうしたイベントの先駆けでも有り、歴史も有るイベントと

なった。毎回35店程の出店者の内、8割は女性で、平日は会社勤めで週末はイベント出展を趣味とする方が多いが、常連のカフェと古本屋を出展しているご夫婦は、このイベントをきっかけに実店舗のオープンを実現し、オリジナル雑貨を作っている方達もハンドメイド通販サイトで人気作家となり、様々なストーリーが広がっている事も楽しみの一つであり、多くの人との繋がりができるイベントである。

超高齢化への情報源



target 8-5
『働きがいのある人間らしい仕事』
target 10-2
『全ての人の能力を強化し社会・経済への関わりを促進』

続いては、『うつのみやシニア通信』という、当社の新聞折込連合チラシのご紹介。オフ輪業のピーク時の地方では、あらゆる業種がチラシで広告活動を行っていたが、今ではその出稿量も半分となっている。ご存知のように、若者向けのチラシはスマホでの告知に変わり、目に付くのは、年配者向けのチラシになるが、年配者も読むはずのスーパーや日用品のチラシでさえ出稿は減り、誌面も小さくなった分、詰め込みすぎて老眼では読むのが困難なチラシが多くなっている。情報化時代と言われるが、パソコンやスマホを使えない年配者の情報量が、かえって減っているのは、印刷業の皆さまならば感じている事と思う。

「ならば、年配者向けの読みやすい情報紙を作ればいいのでは？」との思いつきから、印刷工場課外授業で習得したユニバーサルデザインに準拠した紙面構成にて、文字を大きく、読みやすさ、伝わりやすさを最

優先とするレイアウトにて試作し、母や当社のシニア世代に見せたところ「ん、読める！」と、好感触。気をよくして発行したのが1年前になる。

発行にあたっては、媒体だけでは無く、地域のお年寄りのコミュニティも作り「コト化」もしたいと思っていたので、『遊び筆文字教室』に、地域コミュニティラジオ局との提携で『のど自慢大会』の公開放送を実施し、毎回大好評となっている。どちらも参加費無料にて開催しているが、参加者にはチラシを見ていただき、感想を頂いている。「どのお店の内容が良いか?」「どのお店が読みやすいか?」などのマーケティングと、お友達に宣伝してもらえるように、チラシを20部程お渡ししている。

発行より1年が経過したが、当初は認知度も無く苦戦していたものの、最近では認知度とレスポンスも上がり、長期契約の出稿者も増えてきた。また年配者向けのユニバーサルデザインは思った通りに好評で、媒体広告から単独チラシの受注にも繋がり、他の印刷物も受注できるようになったのは、当初の構想に近きつつある。

このシニア通信を始めるきっかけは「女子社員の産後復帰」と「社員の高齢化」の雇用確保であった。小さな枠での連合広告は、大きな仕事よりは切りが良い。子育て中の女子社員は、時間の制限や、お子さんの体調不良で休む事が多くなるが、電話やSNSを使ったテレワークでカバーし、リーダーとして頑張ってくれている。高齢化が進む社員も、自身で理解が出来る客層の広告営業や制作は、負担も少なく進められている。

私は印刷の未来を繋げるのは、これからも増え続けるシニアマーケットと思っている。

栃木の認知度と観光促進

target 4-7

『教育を通じて持続可能な開発に必要な知識と技能を』

target 8–9

『持続可能な観光業の促進』

target 12-B

『持続可能な観光業に対して持続可能な開発』

藤原秀郷を知っている方はいるだろうか？ 歴史好きなら知っているが、「平将門の乱を平定した武将」や、「俵藤太の百足退治」と言うと、「何となく知っている」と言われる方もいる。

平安中期、まだ武士という存在が確立されず武装貴族と言われていた頃に、将門軍と秀郷軍の戦いが、武士団の始まりであると言われている。将門は関東を手中に収め、朝廷をも脅かす反乱者として討伐の命が下され、最後に討ち取った人物とされるのが藤原秀郷である。その後の怨霊伝説もあり、今なお将門は誰でも知る存在だが、討ち取った秀郷を知る人は、今ではあまりいなくなっている。しかし、乱を鎮めた功績として当時の武門の最高名誉職、鎮守府将軍となり、その後の氏族も七代にわたり鎮守府将軍を務めた。繁栄を誇る氏族により、秀郷は神格化され、史実とは言えない多くの伝説が語り継がれる事となり、「秀郷流」を名乗ることが武士の誉れとされたほどの人物だった。

私は常日頃より思うことがある。都道府県認知度ランキングでも常に低く控えめな栃木県民。ある大学の教授の講話で、「小さな事でも大げさに話すことを「針小棒大」と言うが、栃木県民は、棒大針小だ。」と言っていた。私の事はさておき、実には的を射た喩えであり、経済的にも影響する栃木県の大きな地域課題である。

この課題解決にこそ、SDGsをプラットフォームに、産学官一体のパートナーシップにて、平安から始まる、約800年の武士の社会の始まり『藤原秀郷』コンテンツで、栃木県の観光促進ブランドアップが可能なのではないかと考えている。秀郷の認知活動のスタートは、2017年に宇都宮市の活性化プロジェクトである「宇都宮市民シティープロモーション支援事業」のコンペでの採択からになる。2018年には栃木県立博物館で開催された『藤原秀郷展』との、コラボレーション『藤原秀郷伝説』として、グッズ販売にクイズラリーイベントを開催した。

今年の1月には、栃木県立博物館の学芸員と地元の歴史ライターの先生の講座第1回目の『藤原秀郷フォーラム』を開催した。予定をオーバーする120

名超えでの開催となり、『藤原秀郷』というコンテンツにはポテンシャルが高いことが分かった。参加頂いた中には、文部科学省副大臣をはじめ、県内各行政区に、秀郷の氏族の方と様々な出逢いがあり、ネットワークも広がった。また3月には『第2回目の藤原秀郷フォーラム』を、法政大学院の増淵教授と宇都宮大学の鈴木先生にコンテンツツーリズムの講演を開催予定であったが、コロナ騒動で延期となっている。

今後の活動としては、認知を広めるための書籍の発行や、アニメにゲーム、ゆくゆくはNHK 大河ドラマを目指して、脚本を執筆中でもある。当初は夢を見るようなスタートであったが、現実味を帯びてきたのは、正直なところ驚きである。

おわりに

昨年、ジャグラの全国大会を栃木で開催させて頂いた。どうしたら栃木を楽しんで頂けるかを考え、あらためて地元栃木の事を知ることになった。大会終了後に皆さまから「栃木を見直した!」「栃木ってスゴイじゃん!」などの言葉を頂き、「やっぱり栃木は知られてなかった」との思いと、「栃木はダメじゃない」と、地元への自信に繋がる事となった。

「地域を知り、地域にプライドを持って、県外の方に発信することで、地域創生は可能となる」。私の活動はまだまだ成功事例とは言えないが、ジャグラー会員はじめ、全国の印刷業界の皆さまに役立つ成功事例になって、いつかノウハウを共有し、印刷業界に係わる全ての方の持続的な繁栄に繋がる事を心から願い、私の発表報告とさせていただきます。

.....

発表会の模様が YouTube でご覧いただけます

<https://www.jfpi.or.jp/topics/detail/id=4190>

各社の発表だけでなく、パネルディスカッションの様態も、参考になりますので、ぜひご覧ください。

“じゃぱにうむ 2020” で検索してください



藤原秀郷伝説

FUJIFILM
Value from Innovation

完全無処理300%増。

富士フィルムの完全無処理CTPをテストした95%※が
切り替えを決定し、続々と導入が進んでいます。

しかし、さまざまな理由で導入に至らなかったお客さまが 5% いらっしゃることも、また事実。

富士フィルムでは、この課題を真摯に受け止め、さらなるサポート体制の強化に取り組んでいきます。

※当社比較および調べ

[illegible]

完全無処理の時代は、富士フィルムがつくる。

SUPERIA 完全無処理CTPプレート

■完全無処理プレートを導入されたお客さまの声をご紹介しています。

FFGS 無処理



富士フイルム グローバル グラフィック システムズ株式会社

新型コロナウイルス対策について

助成金、ジャグラ会員向けの相談窓口、テレワークについて

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、印刷業の仕事も減っているという声が聞こえてきます。ジャグラでは、会員の皆さまに向けて当面の対策として、一期分の会費について半額への減免を4月の理事会にて決定しました。その他、各種助成金・融資情報等につきましては、【新型コロナウイルスに関する注意喚起について】と題して、随時メール配信をしていますので参考にしてください。

各種助成金・融資について

「持続化給付金」「雇用調整助成金」など、各種補助金につきましては、[12 ページの『補助金のひろば』](#)にまとめがありますので、ご参照ください。

会員向けに助成金・融資の相談窓口を開設

ジャグラ新宿支部会員でジャグラの役員も務めていただいた山崎泰税理士が、全国の融資制度・助成金等のご相談に応じます。（ご相談内容によっては有料となります）

相談窓口：TFS パートナース（新宿支部）

◎ TFS 国際税理士法人 山崎泰

〒160-0004 東京都新宿区四谷 3-11 山一ビル 5 階

TEL:03-3225-6400 (代) FAX:03-3225-6405 (代)

<https://www.tfsnavi.jp/tkc-corona>

※同社の HP トップには、全国都道府県ごとの事業者向け支援策一覧を掲載しています。

申告・納付が困難な場合における国税の取扱い（一部掲載）

◎新型コロナウイルス感染症の影響で期限までに申告・納付が難しい方は簡易な手続期限延長が可能です
<https://www.jagra.or.jp/wp/wp-content/uploads/pdf/nouzei.pdf>

◎新型コロナウイルス感染症の影響により、国税の納付が難しい方へ 納税の猶予が可能です。
<https://www.jagra.or.jp/wp/wp-content/uploads/pdf/yuuyo3.pdf>

◎新型コロナウイルス感染症の影響を受けている事業者に対する消費税の課税選択の変更に係る特例（案）
<https://www.jagra.or.jp/wp/wp-content/uploads/pdf/shouhizei.pdf>

国税局 猶予相談センターのご案内

国税局猶予相談センターでは、新型コロナウイルス感染症の影響により、国税を一時に納付することが困難な方からの猶予制度に関する質問や相談を専門にお受けしています。

受付時間 9:00～17:00（土日祝日を除く）

電話番号 国税庁 HP にてご確認ください

URL https://www.nta.go.jp/taxes/nozei/nofu_konnan/callcenter/index.htm

ジャグラ事務局テレワーク中 / 最新情報を特設サイトで発信中！

新型コロナウイルス感染拡大防止対策としてジャグラは2月中旬より、①大きい行事・会議の中止・延期、②ネット会議の推進、③会議時におけるマスク着用・手洗い・咳エチケット励行等を実施してきましたが、3月下旬からは更にジャグラ本部事務局のテレワークも実施しています。職員が在宅で職務遂行することになりますので、連絡が必要な場合はなるべくメールをお願いします。電話で不在の場合、折り返しの連絡になり多少ご不便をおかけする場合がありますが、ご理解をお願いいたします。なおジャグラでは、新型コロナウイルス感染症に関する最新情報を下記特設サイトで発信しておりますのでご利用ください。

<https://www.jagra.or.jp/covid-19/>

ジャグラ会員のコロナ禍対策・テレワーク状況

従業者への感染防止のため、テレワーク・時差出勤等が呼びかけられていますので、各社、自社の事情にあった運用を心掛けてください。なお、テレワークにつきましては、顧客より預かる情報の機密保持等、必要な対策を講じようご注意ください。

ジャグラ会員企業数社にコロナ禍対策およびテレワークの取り組み状況についてお聞きしました。（4月上旬の状況です）

◎A社：テレワークは数年前から育児が必要な社員を対象に行ってきましたが、来週からは交代で全員テレワークを経験してもらいます。弊社は部門としては総務、SalesGroup、MakingGroupの3部門にしています。MakingGroupは制作と製造でグループ内でマルチタスクをやらなければなりません。ですから、製造部門の社員もテレワークをすることが可能です。

◎B社：テレワークは現在していませんが、時差出社を推奨しています。しかし、従来のフレックスを使う人間が2人いるだけで、皆普通に過ごしてます。今後のことを鑑み、現在東京都のテレワークの助成金申請の準備をしています。

◎C社：テレワークはしていませんが、パートさんの勤務を減らしました。社員も各自都合に合わせ早退さ

せている程度です。コロナの影響で仕事が減ってるし、電話も減っている。お客さんもテレワークが多いので会社にはいないです。

◎D社：今回のコロナに関して、テレワーク対応はしていません。別にノンビリ構えている訳ではないのですが。お仕事に関しては今月および来月予定の催し物が縮小開催、または取り止めとなり関連印刷物がキャンセルになるなど、大損害とまではならずとも地味に影響が出て来ています。コロナ対処助成金等の申込みを検討しているところです。テレワークについては、機材、システム等を各スタッフ宅へ設置したとして、見合うだけの収益が見込めるかどうか……。

◎E社：今の所、テレワーク対応は無しです。社内の対応として、消毒液の設置と使用の徹底。マスクの配布。社員にはコロナ感染時の会社としてのリスク、自己防衛の話をしています。今の所、営業は変わりなく出かけてます。

◎F社：少人数な為、テレワークは無理なので、外出時マスク着用、帰社時の消毒行為などです。ある程度の規模で、制作だけの専門職であれば可能ですが、プリントアウトしないと解らないこともあるので、そのへんはどうするか課題です。印刷会社で、テレワークができるのは、制作だけじゃないかな。営業、印刷、製本、納品は自宅ではできないので。

テレワークを実施する際の留意点

プライバシーマーク制度を運営する一般財団法人日本情報経済社会推進協会プライバシーマーク推進センターより、テレワークをする際の注意喚起が公表されました。

コロナ禍対策としてテレワークを実施している事業者が増えています。それに伴い、テレワークに関するお問い合わせやテレワークに関連する事故の報告も増えています。

プライバシーマーク付与事業者におかれましては、テレワークの実施にあたり、必要な社内ルール・手順等を整備

し従業者に周知するなど、テレワークの目的に見合ったリスク対策を行っていただきますようお願いいたします。

テレワークにおいては社内での業務と環境や手順が異なり、ミス等が発生しやすくなりますので、今一度、社内ルール・手順を確認していただきますようお願いいたします。

詳細と安全対策等の参考情報については、下記を参照してください。

<https://privacymark.jp/news/system/2020/0420.html>

本格的にテレワークを実施するために

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からテレワーク、時差出勤が呼びかけられています。総務省、厚生労働省の発表より、取り組みを考えてみます。

×

まずは、総務省の資料から。

テレワーク導入手順書

企業のシステム担当者、総務・人事部内担当者の方向けに、テレワークの基礎知識や導入プロセス、ルールづくりなどの実務的な知識・方法をわかりやすく解説した手順書です。（総務省HP）

https://www.soumu.go.jp/main_content/000668432.pdf

この手順書は、厚生労働省と連携して取り組んでいる「新たなワークスタイルの実現に資するテレワークモデルの実証」を踏まえて、各企業の導入・普及を推進するために必要な知識やプロセス、留意点を盛り込んでいるものです。テレワークと言っても何から取り組めば良いかわからない、といった事業者特に参考になります。

◎テレワークの概要とメリット

テレワークとは、テレワークの種類、テレワークのメリット

◎テレワークの全体像

推進体制の構築、実際の導入プロセス

◎セキュリティ対策

セキュリティ対策の目的、情報セキュリティの課題、情報セキュリティ対策の考え方、実施すべきセキュリティ対策

◎ルールの整備

情報セキュリティポリシーの策定、労務管理、情報セキュリティポリシー・勤務規程等の策定事例、導入のための教育・研修

◎ICT環境の整備

ICT環境導入のための手順、テレワークのためのICT環境、テレワーク環境、コミュニケーションツール、労務管理ツール、情報共有ツール、テレワーク環境の具体的な構成

◎テレワーク推進のための評価と改善

テレワークセキュリティガイドライン

第4版(平成30年4月)

これからテレワークを導入しようと考えている企業において、情報セキュリティ対策に関する検討の参考として策

定されたものです。（総務省HP）

https://www.soumu.go.jp/main_content/000545372.pdf

印刷会社においても、機密保持を要する情報等をクラウド上やテレワークで取り扱う際の参考となりますし、自社で全て取り組むのではなく、メーカー・ディーラー等に依頼する場合でも、何のためにその装置があるのか、必要なのか等を判断する材料になります。取り組む内容が「経営者」「システム管理者」「労働者」に分けて記述してあるので、教育テキストとしても最適です。

◎はじめに

テレワークにおける情報セキュリティ対策の考え方＝「ルール」「人」「技術」のバランスがとれた対策の実施、テレワークの方法に応じた対策の考え方、経営者、システム管理者及びテレワーク勤務者それぞれの立場

◎テレワークセキュリティ対策のポイント

経営者が実施すべき対策、システム管理者が実施すべき対策、テレワーク勤務者が実施すべき対策

◎テレワークセキュリティ対策の解説

情報セキュリティ保全対策の大枠、マルウェアに対する対策、端末の紛失・盗難に対する対策、重要情報の盗聴に対する対策、不正アクセスに対する対策、外部サービスの利用に対する対策

◎用語集・参考リンク集

THE Telework GUIDEBOOK

テレワーク導入を考えている企業、既にテレワークを導入したものの運用が円滑に進んでいない企業を支援するための手引書です。（総務省HP）

http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/telework/furusato-telework/guidebook/index.html

産学官協働でテレワークの円滑な導入に資する調査研究や普及等の活動を行うことにより、テレワークの一層の普及促進を図ることを目的として活動しているテレワーク推進フォーラムが発行しています。

◎このガイドブックができた背景と使い方

◎テレワークとは？

◎テレワークの効果・効用

◎テレワーク導入のプロセス

◎プロジェクトチームの役割と基本戦略の策定

◎テレワークに関する社内ルール作り

◎情報通信の活用によるテレワーク環境の向上

◎テレワーク導入にあたっての教育研修

◎まとめ・資料編

在宅勤務ガイドライン

情報機器を活用した在宅勤務（テレワーク）の適切な導入と実施をスムーズに行うための労務管理の在り方をQ&A形式でわかりやすく説明しています。（総務省HP）
https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/telework/furusato-telework/guidebook/pdf/zaigakuguideline.pdf

Q&A形式にまとめられており、分かりやすいです。

×

次は厚生労働省のガイドライン。テレワークには、「雇用型テレワーク」「自営型テレワーク」の区分のほか、雇用型でも在宅型・サテライトオフィス型という区分もありますが、今回は、「雇用型テレワーク」を取り上げます。労務管理から見たガイドラインが多く、モデル就業規則もあります。

×

テレワークにおける適切な労務管理のためのガイドライン

情報通信技術を利用した事業場外勤務の適切な導入および実施のためのガイドラインです。

<https://www.mhlw.go.jp/content/000553510.pdf>

文字主体13ページのガイドラインで読むのが大変ですが、本編・概要のほか、詳細パンフレット、簡易パンフレットも用意されています。

◎テレワークについて

◎労働基準関係法令の適用および留意点等（労働基準関係法令の適用、労働基準法の適用に関する留意点、長時間労働対策について、労働安全衛生法の適用及び留意点、労働災害の補償に関する留意点）

◎その他、導入および実施するに当たっての注意点

◎テレワークを行う労働者の自律

◎導入・実施に関する資料集

テレワークモデル就業規則～作成の手引～

テレワーク勤務規程のひな形と規程を作成の際の留意点を解説。http://www.tw-sodan.jp/dl_pdf/16.pdf

◎テレワークとは

◎テレワークと就業規則

◎規定例、モデル「テレワーク就業規則」（在宅勤務規程）

テレワーク導入のための労務管理等Q&A集

テレワーク時の労務管理に関するポイントをQA形式で詳細に解説。http://www.tw-sodan.jp/dl_pdf/13.pdf

◎テレワークの導入に関するQ&A

どのような働き方ですか？、どのような効果がありますか？、業務の生産性は上がりますか？、導入に何が必要ですか？、どのようなプロセスで導入すべきですか？、導入目的を明確化すべきですか？、社内の基本方針やルールを定めるべきですか？、社内の合意形成をどのように図るべきですか？、テレワークで行う業務をどのように選定すればよいですか？、導入前に研修を行うべきですか？、導入にあたって就業規則を変える必要がありますか？

◎労務管理に関するQ&A

テレワーク実施時でも労働基準法などは適用されますか？、労働時間をどのように管理すればよいですか？、労働時間の把握に際しどのようなツールを活用できますか？、自宅でテレワークを行う場合、「事業場外労働のみなし労働時間制」を利用できる要件はありますか？、労働者の都合に応じた所定労働時間の変更は可能ですか？、テレワーク実施時の業績等に関する人事評価はどのように行えばよいですか？、テレワーク実施の際に要した通信費・水道光熱費などの費用は会社が負担すべきですか？

◎安全衛生・労災保険に関するQ&A

テレワーク時の安全衛生対策はどうすればよいですか？、在宅勤務時の作業環境管理はどこに留意すべきですか？、在宅勤務時の健康管理はどこに留意すべきですか？、テレワーク時にも労災保険は適用されますか？

◎情報通信環境・セキュリティに関するQ&A

必要な情報通信機器は？、導入のためのICT環境の構築にはどのような方式がありますか？、セキュリティ対策にはどのようなものがありますか？、テレワーク用端末としてはどのようなものがありますか？、私物のパソコンを使用しても問題ないですか？、セキュリティルールを策定しておくべきですか？

◎国の支援制度

導入に当たってどこに相談すればよいですか？、職場意識改善助成金（テレワークコース）はどのようにすれば受給できますか？

最後に、この4月から本格的に始まった働き方改革ですが、その面から見たガイドラインが総務省・厚生労働省双方にありますので紹介しておきます（次ページ）。

お知らせ

働き方改革のためのテレワーク導入モデル 総務省 2019年

テレワークを段階的に導入、全社展開・普及していくためのノウハウやプラクティスについて、テレワーク先進企業の具体的な事例を交えつつ紹介。（HPより）

https://www.soumu.go.jp/main_content/000616262.pdf

◎テレワーク導入モデルー企業類型

◎テレワーク導入モデルー各導入ステージでの課題と対策
各課題と事例紹介＝テレワークの効果を経営指標を用いて説明、中間層からテレワークトライアル、低コストでテレワークツールを運用、時間制約が無い従業員に対するテレワークの普及啓発、現場・接客部門がいきなり「不公平感」の払拭、従業員の自律性・主体性・マネジメントスキルの育成、人工（ニンク）ビジネスにおける「クライアントの壁」の打破、テレワーク浸透度（実施従業員率）50%の突破

◎経営課題に対するテレワークの有効性の解説

生産性向上、外部環境変化への対応、人材確保、BCP（業務継続）対応

◎実録：先進企業の制度・規程

テレワークではじめる働き方改革 厚生労働省 2016年

テレワークの導入、運用の総合ガイドブック。実践事例に基づき解説。導入検討企業が最初に読むべきガイド。

（HPより）http://www.tw-sodan.jp/dl_pdf/14.pdf

◎基礎編

テレワークとは、我が国のテレワークを取り巻く現状、テレワークの効果

◎実践編

モデル類型とは、テレワーク導入の手順・推進体制、テレワーク実施のための全体方針の決定、テレワークのためのルールづくり、テレワークのための ICT 環境づくり、安全なテレワークのためのセキュリティ対策、テレワーク推進のための評価と改善

以上

連載 補助金のひろば⑥ 最終回

新型コロナウイルス感染症関連の助成金・融資について

経営基盤強化委員会

経営基盤強化委員会（岡澤担当副会長、中村盟委員長）は、経営に役立つ補助金情報を隔月で紹介してきました。最終回となる今回は新型コロナウイルス感染症関連の補助金情報と助成金、融資関係の相談窓口についてご案内します。補助金情報はこれからも引き続きメールおよび本誌でご紹介します。

×

持続化給付金で各社へ 200 万円支給されます。

ひと月分の売上げ（例えば 2020 年 4 月分が昨年 の 4 月対比）で 50%減少している会社を対象です。申請受付は、補正予算成立の翌日から。是非ご活用ください。経済産業省のHPにアクセスして申請してください。申請項目が簡素化されています。

<https://www.jizokuka-kyufu.jp/>

雇用調整助成金で休業補償

4 月 1 日から 6 月 30 日まで、雇用調整助成金に特例措置を拡充しました。雇用を守るため、従業員の休業手当日限 8330 円を上限に支給されます。対象は全業種で最近 1 か月の生産指標が前年同期比 5%以上減少した場合が要件。計画書を東京労働局またはハローワークに提出。雇用保険被保険者のみならずパートタイマーや臨時工にも枠を広げています。

<https://www.mhlw.go.jp/content/000620879.pdf>

民間金融機関における実質無利子・無担保融資

都道府県等による制度融資を活用して、民間金融機関にも実質無利子・無担保・据置最大 5 年の融資を拡大しました。併せて信用保証の保証料を半額またはゼロにします。
問い合わせ：中小企業金融相談窓口

Horizon Change the focus

「理屈」で考えるワークフロー、 ポストプレスにフォーカスしてみませんか



四六判半裁全自動紙折機+横型プレススタッカー AFC-566FKT+PST-44

大型カラータッチパネルを搭載し、用紙を1枚挟むだけで、全ての設定を数十秒で行います。便利なワイヤレスリモコンを標準装備し、操作パネルから離れている場所でも操作できます。



自動無線綴機4クランプタイプ BQ-480

セット替えの高速化による、小ロット、バリエーション製本での高生産性を実現。1冊ずつ厚みの異なるバリエーション製本を最高で時間800冊で処理することが可能です。



ペラ丁合鞍掛け中綴じ製本システム StitchLiner MarkⅢ

厚みの異なる冊子に応じて各部を自動で調整、作業を中断することなく安定した高品質な製本を実現。A4S綴じ冊子は最高6,000冊/時間、A4E綴じ冊子は最高5,300冊/時間で処理することが可能です。（製本速度は紙質や紙の厚さによって異なります。）



全油圧断裁機 APC-610

幅61cm、厚さ10cmまで一度に断裁でき、プレッシャとともに、カッティングも油圧式で強力です。



ホリゾン・ジャパン株式会社 www.horizon.co.jp

本社	〒101-0031	東京都千代田区東神田2-4-5	東神田堀商ビル5F	TEL.03(3863)5361(代)	FAX.03(3863)5360
東京支社	〒132-8562	東京都江戸川区松江5丁目10-9		TEL.03(3652)7631(代)	FAX.03(3652)8083
京都支社	〒601-8206	京都市南区久世大藪町510		TEL.075(933)3060(代)	FAX.075(933)4025
福岡営業所	〒813-0034	福岡市東区多の津4-12-17		TEL.092(626)8111(代)	FAX.092(626)8112

2019年デジタル印刷市場の現状①

日印産連『印刷業界におけるデジタル印刷に関するアンケート調査』より

ジャグラなど印刷関連 10 団体で組織する一般社団法人 日本印刷産業連合会（以下、日印産連）は、デジタル印刷機の活用状況調査を 2010 年から毎年実施していますが、このほど 2019 年度の調査報告書を公表しました。デジタル印刷市場の動向は、軽印刷の流れを汲むジャグラにおいて極めて重要なテーマゆえ、本報告書のサマリーを抜粋して紹介します。（報告書は日印産連の HP からダウンロードできます）

調査方法・設問など

◎調査方法と回収結果

日印産連傘下 10 団体から抽出した 713 社にアンケート用紙を郵送、213 社から回答を得ることができた（回答率 29.9%）。うちジャグラ会員の回答は 15 社でデジタル印刷機は 14 社が保有と答えている。

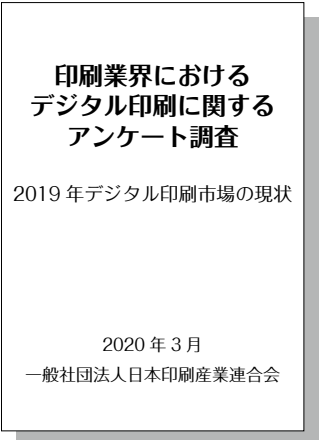
◎報告書の構成・設問など

報告書は、冒頭で「調査方法」について説明、加えて調査結果のサマリー（概要）を簡潔に述べたうえで、詳細な設問とその調査結果について触れている。

設問は、「回答企業プロフィール」の調査として、①従業員規模と売上規模、②デジタル印刷機の保有状況、③主要な受注品目、④社内の工程・製造設備、⑤売上構成比、を問うている。

また、「デジタル印刷機の保有、活用状況」の調査として、⑦デジタル印刷機保有企業の売上構成比、⑧デジタル印刷

報告書が日印産連 HP よりダウンロードできます



<https://www.jfpi.or.jp/topics/detail/id=4671>

機の保有台数・稼働状況・収益性、⑨デジタル印刷機の月間出力枚数、⑩デジタル印刷の受注品目ごとの傾向、⑪受注一件あたりの平均ロットと受注金額、⑫デジタル印刷の顧客への訴求ポイント、⑬デジタル印刷が有版印刷を上回る時期、⑭自社においてデジタル印刷が有版印刷よりも有利な点、⑮実施している施策、を問うている。

加えて、「デジタル印刷機活用企業の特徴」として、⑯デジタル印刷関連の売上構成比が高いグループ、⑰印刷枚数が多いグループ、について分析し、「自由回答」として、⑱メーカーサイドへの要望、⑲ユーザーサイドの課題、についてフリーコメントが掲載されている。

編集部注：報告書は A4 判 48 ページあり、一括掲載できませんので、本号では「回答企業プロフィール（①～⑤）」「サマリー」を、それ以外については次号以降でご紹介します。

団 体 名	発送 件数	有効 回答 件数	回答率	デジタル 印刷機 保有社数	保有率	保有台数 小計	1. トナー 粉体		2. トナー 液体	3. インクジェット 大判		4. 高速インクジェット 枚葉		5. 高速インクジェット 連帳		6. インクジェット オフセット等 に搭載	7. シール ラベル
							カラー	モノクロ		カラー	モノクロ	カラー	モノクロ	カラー	モノクロ		
印刷工業会	50	20	40.0%	16	80.0%	43	17	6	3	6		4		3	1		3
全日本印刷工業組合連合会	231	72	31.2%	71	98.6%	238	119	34	6	72	1			5		1	
日本フォーム印刷工業連合会	34	12	35.3%	11	91.7%	64	17	25	3	3		9		5	2		
日本グラフィックコミュニケーションズ工業組合連合会	70	22	31.4%	18	81.8%	79	30	6		39		3					1
日本グラフィックサービス工業会	52	15	28.8%	14	93.3%	56	32	16		8							
全日本シール印刷協同組合連合会	67	12	17.9%	12	100.%	32	5	2	2	5							18
全国グラビア共同組合連合会	49	17	34.7%	3	17.6%	3			2					1			
全日本スクリーン・デジタル印刷協同組合連合会	58	15	25.9%	10	66.7%	41	3		2	36							
全日本製本工業組合連合会	4	2	50.0%	2	100%	4	2	1	1								
日本印刷技術協会	98	26	26.5%	22	84.6%	95	45	11	9	16		1		4	5	2	2
全 体	713	213	29.9%	179	84.0%	655	270	101	28	185	1	17	0	18	8	3	24

▲アンケート回収状況とデジタル印刷機の保有状況

回答企業プロフィール

◎従業員規模

「20 ～ 49 人」の層が 30.5%と最も多くなっている。そして、50 名未満の企業が全体の約 5 割近くを占める。

1 ～ 19 人：18.8%	20 ～ 49 人：30.5%
50 ～ 99 人：22.1%	100 ～ 299 人：18.3%
300 人～：10.3%	n=213

◎売上規模

売上規模は、「年商 1 億円以上 3 億円未満」、「5 億円以上 10 億円未満」、「10 億円以上 30 億円未満」の層が同率（18.8%）で並んでいる。また 10 億円未満の企業が全体の過半数（56.4%）を占める。

1 億円未満：4.7%	1 ～ 3 億円未満：18.8%
3 ～ 5 億円未満：14.1%	5 ～ 10 億円未満：18.8%
10 ～ 30 億円未満：18.8%	30 ～ 50 億円未満：8.5%
50 ～ 100 億円未満：7.0%	100 ～ 150 億円未満：2.3%
150 億円以上：4.7%	n=213

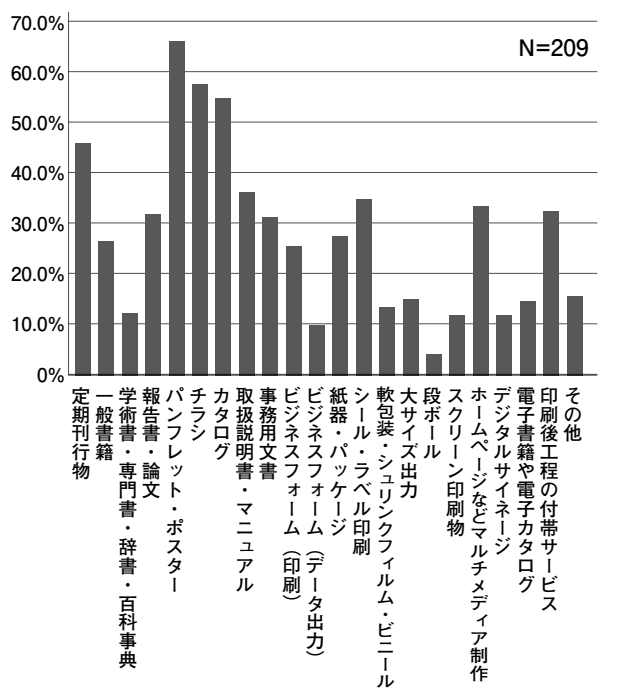
◎デジタル印刷機の保有状況

回答企業のデジタル印刷への取組み状況について問うている。現在デジタル印刷機を保有している企業からの回答が 8 割を超えている。「未導入だが導入を検討中」が 5.6%、「未導入で導入の検討もしていない」が 10.3%であった。

保有している：84.0%
未導入だが導入検討中：5.6%
検討していない：10.3%
n=213

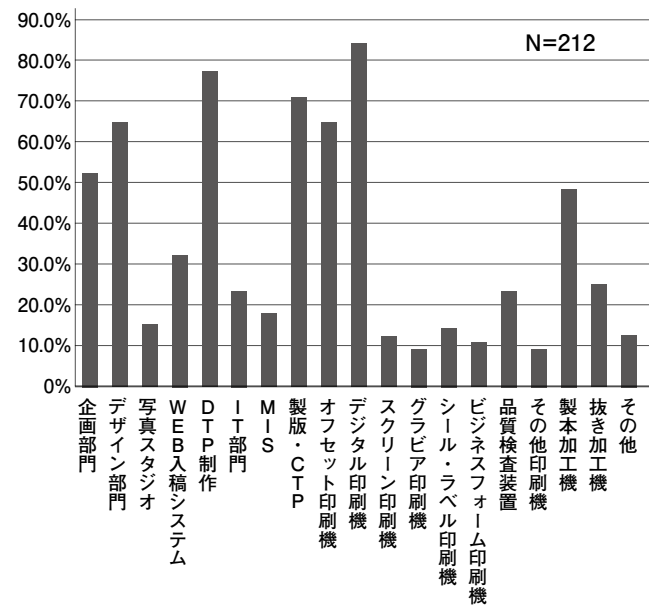
◎主要な受注品目（複数回答）

パンフレット・ポスター、チラシ、カタログが上位で商業印刷分野を扱っている企業が多い。次いで出版印刷である定期刊行物が多い。



◎社内の工程・製造設備（複数回答）

保有設備では、デジタル印刷機、製版 /CTP、オフセット印刷機が保有率 60%を超えている。部門では、DTP 制作、デザイン部門を持つ回答企業が 60%を超え、企画部門を持つ企業が半数弱、IT 部門を持つ企業が約 20%となっている。昨年度調査とほぼ同様の傾向である。



◎売上構成比

売上構成を「1. 従来印刷（オフセット／グラビアなど）関連（DTP制作や製本・後加工含む）」「2. デジタル印刷関連（DTP制作や製本・後加工含む）」「3. デジタルコンテンツ制作（印刷はしない）」「4. その他付帯サービス」の4種類に分類し、それぞれの構成比を尋ねた。全体平均では、「従来印刷」の売上構成が72.6%、「デジタル印刷」の構成比が12.4%（前年は11.2%）という結果であった。前年とほぼ同様の傾向である。

従来印刷：72.6%

デジタル印刷：12.4%

デジタルコンテンツ制作：5.1%

その他付帯サービス：9.9%

n=182

サマリー（概要）

◎売上に占めるデジタル印刷の割合は？

回答企業の全体の売上に占めるデジタル印刷の割合は平均12.4%で、前年度11.2%からわずかながら増加した。一社平均の保有台数は3.88台で、前年度の4.28台から0.4ポイント減少した。大判インクジェットの台数減が影響している。

◎オフセットなどの従来印刷を超える時期は？

「超えることはない」という回答は61.4%で、昨年の68.7%から7%以上減少している。若干ではあるがデジタル印刷へのイメージは変化していると思われる。

◎デジタル印刷機の方式は？

方式別では「トナー（粉体）」が371台、「トナー（液体）」が28台、「大判インクジェット」が186台、「高速イン

クジェット（枚葉）」が17台、「高速インクジェット（連帳）」が26台、「インクジェット（オフセット機等搭載）」が3台、「シール・ラベル」が24台であった。「大判インクジェット」は前年度の246台から大幅減、「シール・ラベル」は前年度の8台から大幅増となっている。

◎デジタル印刷の売上上位品目は？

1位が「事務用印刷」、2位が「DM」、3位が「報告書・論文」、「議事録」などとなっている。成長率、将来性については「DM」に期待が集まっている。

◎デジタル印刷の受注1件当たり平均ロット数は？

平均ロットは「500枚以下」が全体の57.2%であった。小ロット中心という傾向に変わりはない。一方で、平均ロットが「1万枚超」という回答も12.0%（前年は8.5%）あり、データプリントやDMを中心とした大ロットデジタルという市場も存在している。

◎デジタル印刷の顧客への訴求ポイントは？

「極小ロット対応」（72.0%）、「短納期」（69.0%）の二つが突出している。小ロット・短納期の訴求が強いという傾向は例年通りである。「1枚1枚内容を変えた印刷ができる」は54.8%であり、前年度（47.3%）から7.5ポイント増えている。今後の動向が注目される。

◎デジタル印刷が従来方式より有利な点は？

「オペレーターが確保しやすい」を上げる企業が多くみられた。昨今の深刻な人手不足も相まって、前年度よりも6.9ポイント増の46.9%がメリットとして挙げている。また「収益性が高い」という回答も前年から大幅に増加している。デジタル印刷は、小ロットで1件あたりの受注金額が安くて儲からないという定説が変わりつつある。

◎その他

デジタル印刷関連の売上構成比が全体の30%以上を占める企業は、「従業員50人未満」が75%を占めている。デジタル印刷への移行は小規模企業の方が容易という傾向が続いている。一方デジタル印刷機による印刷枚数が多い企業は「従業員100人以上」が45.5%を占めている。

顧客への訴求ポイントで、印刷枚数が多いグループとそれ以外のグループで大きな差が出たのは、「豊富なバリエーション」、「一部単価の安さ」、「在庫レス」である。

社内の実施策では、IT力の強化で両グループに大きな差がでた。印刷方式のデジタル化だけでなく、受注窓口としてのWeb to Printの対応、小ロット短納期の大量の案件をスムーズに捌くためのワークフローの構築、そしてDMなど個人情報を扱う場合のセキュリティ体制の構築など、総合的なIT力が問われる。

以下次号



東京リスマチック株式会社

なんでも相談窓口

プリントデスク 0120-269-132

平日（月～金）9:00～17:00 E-mail: support@lithmatic.co.jp



Lithmatic
http://www.lithmatic.net

理事会&委員会通信 ジャグラの活動報告です

理事会議事録より

4.24 第一回理事会を開催 4～6月の会費減免を決定

ジャグラは4月24日、本部ニッケイビルにて令和2年度第一回理事会を開催した。新型コロナウイルス感染防止対策のためネット会議も活用したほか、地協会長も臨席して拡大理事会として開催した。

×

第一号議案
役員の派遣・スケジュールに関する件
省略（巻末スケジュールを参照してください）
《検討の経緯》満場一致で承認した。

第二号議案
ジャグラ文化典高知大会に関する件
これまで総務委員会・高知の実行委員会と協議してきたが、新型コロナウイルス感染拡大が止まらず、緊急事態宣言も出たことを受けて、きたるジャグラ文化典高知大会は中止にしたい。
《検討の結果》
満場一致で承認した。その際、下記のとおりとする。

- 定時総会
- ①スローガン→中村会長に一任
 - ②組織拡大表彰→11月開催予定の全国協議会にて行う
 - ③退任役員への感謝状→11月開催予定の全国協議会にて行う
- 文化典式典
- ①業界功労賞・社会貢献表彰・優良従業員表彰→11月開催予定の全国協議会にて行う。そのため、締切を6月25日に延長する。6月26日理事会にて承認する
 - ②運営委員会・実行委員会への感謝状→11月開催予定の全国協議会にて行う。
 - ③作品展→次期に実施する（応募作品は繰り越す）

第三号議案
第55年度事業報告書の決定に関する件
6月6日開催の第55回定時総会に報告する事業報告書を決定したい。（詳細は郵送した総会資料を参照してください）
〔主な発言〕
◎新型コロナウイルス感染拡大の件に触れていないが、どうなのか？→報告では触れずに、計画にて触れる予定
《検討の経緯》満場一致で承認した。

第四号議案
第55年度収支決算書および監査報告書の決定に関する件
定時総会に報告する収支決算書を決定したい。あわせて監査報告書の内容を報告する。（詳細は郵送した総会資料を参照してください）
《検討の経緯》満場一致で承認した。

第五号議案
第56年度事業計画（案）の決定に関する件
定時総会に提案する事業報告書の内容はさる3月に開催した書面理事会にて承認しているが、改めて承認を得たい。（詳細は郵送した総会資料を参照してください）
〔主な発言〕
◎新型コロナウイルス感染についてふれたらどうか？→そうする。加えて緊急事態宣言の発出の期限も触れることができた
◎高知大会を中止にした件はどうか？→加えたい。
《検討の経緯》満場一致で承認した。

《10分の休憩の後、再開。第九号議案を先に審議した》

第九号議案
新型コロナウイルス感染拡大に伴う会費減免に関する件
4月7日に改正新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく緊急事態宣言が発出されている。これまでもイベント等の自粛で印刷需要の取り消しが現に出ており、他の産業とともに印刷業の需要は落ち込んでいることが予想される。これを受けて、ジャグラでは、令和2年4～6月の会費を「実質的に半額」にする措置を講じたい。（※会費は総会事項なので、理事会でできる措置として「実質的に」といれている。）
〔主な発言〕
◎金額はいくらか？→会費収入は3600万円、四期なので一期は900万円、その半額は450万円。
◎具体的な手続きは？→4月・5月・6月期の会費を請求する際（5月上旬）、一期分の会費額を請求し、支部助成金を一期分会費の半額相当として減額し、都合、支払う額は一期分の会費半額となる。

◎良い提案であるが3か月ではなく6か月にできないか？→会館借入金の返済など現状のキャッシュフローでは難しい。

キャッシュフローを見直せばできる可能性はある。
《検討の経緯》満場一致で承認した。
第六号議案
第56年度収支予算（案）の決定に関する件（報告）
定時総会に提案する収支計算書の内容はさる3月に開催した書面理事会にて承認しているが、改めて承認を得たい。以上の提案のうち、第九号議案が承認されたことを受けて、会費収入が450万円の減収になる旨を補足として提案した。
《検討の経緯》満場一致で承認した。

第七号議案
第56年度年間スケジュールに関する件
省略
《検討の経緯》満場一致で承認した。

第八号議案
第56年度事業推進体制の決定に関する件
省略（詳細は郵送した総会資料を参照してください）
〔主な発言〕
◎経営技術研究とクロスメディアは、具体的に何をする事業か？→「経営技術研究」は働き方改革が叫ばれているので、実際に変えている事例等掘り起こしたい。「クロスメディア」は人材育成、技術研究を主たるテーマとしたい。
◎組織拡大はしないのか？→「コミュニケーション事業」の地協・支部支援で担当することになると思う。
《検討の経緯》満場一致で承認した。

第十号議案
役員改選に関する件
省略（詳細は郵送した総会資料を参照してください）
※今回、各地協の事情で他の地協より推薦のある方がいる。各地協で承知している内容であることを明確にしておきたい、と会長より補足説明があった。
《検討の経緯》満場一致で承認した。

第十一号議案
その他の件
①菅野副会長の資料説明
東京グラフィックスで実施した会議の資料と、コロナ禍の助成制度の一覧について説明した。
②菅野副会長コロナ対策ポスター
東京グラフィックス会員の(株)イナミツ印刷が作成した新型コロナ対策ポスターについて説明した。
③熊谷副会長「コロナ現状報告」
コロナ禍で仕事が減っている現状について、各地の報告を要請した。
④岸近畿地協会長「アンケート」報告
近畿で実施したアンケートの結果報告があった。
⑤菅野副会長「テレワーク就業規則」
近畿からの報告であった「テレワーク就業規則」について、しっかりしたものを作成すると時間がかかるので、運用ルールといったライトなもので取り組んでいる事例の報告があった。
⑥青木理事「融資・助成金」
コロナ禍で会員も大変な状況なので、今以上に融資・助成金の情報を発信して欲しい旨の発言があった。

●出席			
会 長	中村耀		
専務理事	沖敏三	（常務理事）	守田輝夫
※以下、ネット出席			
副 会 長	熊谷正司、岡澤誠、菅野潔、岡本泰、山本耕司、中越忠男		
理 事	向井一澄、宮本誠、尾形文貴、清水隆司、齋藤秀勝、青木滋、吉澤和江、中村盟、吉岡新、笹岡誠、原田大輔、高橋広好、谷川聡、岩下登、宮崎真、本村豪経		
監 事	佐藤順、松永英明		
臨 席	岸徹（近畿地協会長）		
●欠席			
理 事	渡辺辰美、早坂淳、松本徹、斎藤隆正		
監 事	前沢寿博		

あなたの会社を守る ジャグラ・グループ保険

- 特長1 掛金が割安です（例：30歳男性、1口277円/月）
- 特長2 死亡時保障額は最高1600万円
- 特長3 事故による入院もワイドに保障
- 特長4 医師の診査はありません 告知のみでお申し込みいただけます
- 特長5 掛金のお支払方法も簡単です

お問い合わせはジャグラ事務局・酒井まで **Tel.03-3667-2271**



MOTOYA

ユーザーサポートこそ商品

株式会社ショーワは、謄写版および付属品の販売と謄写印刷業の＜昭和謄写堂＞として、昭和3年に幅弓之助が創業しました。
創業者の幅弓之助は「良いものを売り、売ったものには責任を持つ事」に頑固なまでにこだわり続け、そのこだわりは創業から100年に向けて今なおショーワの社員一人一人にDNAとして脈々と受け継がれています。

長きに渡り、多くの取引先企業様より厚い信頼を寄せて頂けるのも、企業理念にもあります様にユーザーサポートという目に見えない、形のない「商品」だからこそ、付加価値を創造し続け、溢れる情報、市場状況を正確に分析・判断しうる知識とユーザーサイドで常に物事を考える「誠意」が評価して頂けているものと考えています。

今後も常に「ユーザーサポートこそ商品」の企業理念、創業者・幅弓之助の熱い志を胸に社員一同業務につとめていく所存です。

21世紀のグラフィックアーツを共に考えるショーワユーザー会

コラボレーション & リサーチ

SHOWA会

ユーザー会で密に情報交換

年間活動

- 研修会 ○工場見学 ○総会・幹事会
- 会報・メールマガジンの発行 ○有志グループ活動

問い合わせ、入会お申込みは事務局まで

SHOWA会事務局 TEL.03-3263-6141 FAX.03-3263-6149



株式会社

プリントメディアの総合商社

<http://www.showa-corp.jp/>

〒101-0065 東京都千代田区西神田2丁目7番8号 TEL 03-3263-6141 (代) FAX 03-3263-6149

お客様の使用用途に合わせて お好きなフォントを1書体から！



書体見本

モトヤアポロ

表情豊かなモトヤ書体。

ABCDEFGH abcdefg 0123456789

モトヤ明朝

表情豊かなモトヤ書体。

ABCDEFGH abcdefg 0123456789

モトヤシーダ

表情豊かなモトヤ書体。

ABCDEFGH abcdefg 0123456789

Sモトヤ正楷書

表情豊かなモトヤ書体。

ABCDEFGH abcdefg 0123456789



MOTOYA

大阪 〒542-0081 大阪市中央区南船場1-10-25 Tel (06) 6261-1931 (代)
東京 〒104-0032 東京都中央区八丁堀4-5-5 Tel (03) 3523-8711 (代)
URL <http://www.motoyafont.jp/>

ジャグラ緊急連絡網

地震・大規模水害など緊急事態が発生したときの手順

- ① 身の安全確保、緊急避難、二次被害防止
安否確認（社員・家族・来訪者）
- ② 被害状況確認
本部よりFAX送付 → 該当被災地域の会員へ
- ③ 会員企業から被害状況の連絡 → 支部長へ
- ④ 支部長が担当支部の被害状況を集約
- ⑤ 支部長による状況報告 → 地協会長へ
- ⑥ 地協会長による状況報告 → 本部で集約

ジャグラ本部連絡先

Tel 03-3667-2271 Fax 03-3661-9006
E-mail jagra@jagra.or.jp

◎状況を見ながらできるだけ急いで連絡をするように心がけてください。支部長は日頃から支部会員とコンタクトを取り、携帯番号を把握しておきましょう。支部の緊急連絡網やLINEグループなどを整備しましょう。

◎お知らせいただく被害状況は、ジャグラ理事、地協会長、支部のみが共有するものです。第三者に漏らすようなことはありません。

◎本部が被災した場合は、別の支部（①近畿地協／②北海道支部・地協／③中国地協／④九州地協）の順で、会長指示のもと本部代行として災害対策本部を設置します。

◎災害用伝言ダイヤル＊1（171）、災害用伝言版サービス＊2（各社携帯メニューから）、災害用ブロードバンド伝言版＊3（WEB 171）なども活用してください。サービスにより、録音時間の制限や48時間で消去されるものがありますので複数の方法で対応するようにしてください。

◎万が一被災してしまった場合は、自治体ではボランティアなどの人的支援、救援物資輸送、災害復旧貸し付け、債務返済緩和等の措置が取られます。

◎メーカーでは被災した機械の無償修理や代替機の貸出しなどがあります。各自治体やメーカーにお問い合わせください。

お知らせ

2019年度 JaGra作品展中止のお知らせ

2019年度のJaGra作品展につきましては、新型コロナウイルスの収束が見通せない現状を踏まえ、残念ながら中止にさせていただくことになりました。

×

お忙しい中、2019年度の作品展に作品をお送りいただきました会員の皆様には、大変ご迷惑をお掛けいたしましたして申し訳ございません。

なお、作品の募集につきましては、今後も継続して行っておりますので、ご応募をお待ちしております。

2020年度の作品展の日程及び募集要項につきましては下記の通り予定しております。

募集対象

- ① 2019年1月1日～2020年12月31日までに完成した作品
- ② 2019年度分のご応募作品はこのままお預かりし、2020年度の審査会にて審査いたします。



募集期間

作品募集は2021年3月末まで継続して行います。

審査会日程

- ① 1次&2次審査 2021年4月上旬予定
- ② 最終審査会 2021年4月中旬予定

表彰式・展示

ジャグラ文化典近畿大会・式典にて
2021年6月5日（土） 於 ホテル日航大阪

町工場の技術生かして「段ボール箱まくら」開発

e-中小企業ネットマガジンVol.919より転載 (http://www.chusho.meti.go.jp/e_chusho/index.html)

有限会社坪川製箱所（東京都葛飾区、坪川美明社長）は1959年5月設立。60年以上、段ボールケースの製造・販売やディスプレイのセットアップなど梱包と製箱一筋で歩んできた町工場だ。いま同社が注力しているのが「段ボール箱まくら」。段ボール製の簡易枕で、中にタオルやポケットティッシュなど日用消耗品を収納し常備しておけば災害時に役立つ。

2011年の東日本大震災。被災者を伝えるテレビ映像を見て同社の坪川恵子専務は「避難所での生活のために、なにかうちの会社でできることはないか」と感じた。その後も熊本地震や台風被害など災害が相次いだ。ツテを頼って被災者に話を聞くと「避難所には毛布はあるが枕がない」「日用品がいつ届くかわからず不安だった」という。「そうか。ならば段ボールで枕をつくろう。町工場の技術を活かしたどこにもない段ボール枕を」と決めた。

開発に乗り出したのは4年前。製図して段ボールをカットし、手作業で折り畳み、細部を糊付けして試作品を作った。なかには被災時に支援物資が届く前にすぐ必要になる紙おむつ、タオル、ポケットティッシュ、黒マジックなどを収めた。学校や町内会主催の地域の防災訓練に出向き、参加者に試作品で寝てもらって使い心地や要望を聞いた。クッション性を高めるために中心部に切れ目を加えるなど改良を重ねた。

段ボール箱まくらは2016年10月実用新案取得、2019年4月商標登録取得。2016年度に葛飾区が認定する葛飾ブランド「葛飾町工場物語」に選ばれ、2019年度は東京商工会議所主催の「勇気ある経営大賞」で奨励賞を受賞した。小・中学校の防災教育に使用されているほか、2018年の西日本豪雨では避難所の小学校に寄付した。グッズ入りは2000円、グッズなしは1000円でネット通販でも購入できる。の姉妹商品として「段ボールトレイ」も開発・販売。被災時に配膳トレイとして複数のおかずを運べるし、キャンプなどイベント時の食事に使えると好評だ。組み立てて好きな色や絵を描ける子供向け玩具「段ボールハウス」もある。住宅展示場で外装色のシミュレーションや集客に使われているほか、近隣の保育園に寄付し、生の声を聴いて改善している。

段ボールは軽くて丈夫、荷物を積んだり、畳んだり、色を塗ったりと誰もが自由に加工できる。再利用が可能で廃棄も簡単、他の素材に比べて安価でもある。坪川専務は「段ボールには無限の可能性がある。これからも大量生産できる機械設備が整った大手企業にはできない短納期・小ロットのオリジナル商品を生み出し、社会貢献できる会社を目指したい」と考えている。

シリーズ 需要創出を考える②0

印刷需要が低迷し、価格競争が激化する経営環境の中で、ジャグラ会員企業はどのようにして活路を見出そうとしているのかを探るシリーズ。今回はジャグラ作品展受賞企業の中から、東京・港支部の(株)イナミツ印刷さんの事例をご紹介します。同社企画担当・後藤裕太さんにお話を伺いました。

事例21 作品展 / 開発・開拓部門 ジャグラ会長賞

社員の特技を活かして実現した『似顔絵缶バッチ』

(株)イナミツ印刷(東京・港)

——ジャグラ作品展の入賞、おめでとうございます。

■後藤 ありがとうございます。

——受賞作は、似顔絵を缶バッチにして、それを額縁に元の写真とともにレイアウトした商品ですが、どのようなきっかけで作られたのですか？

■後藤 これは、完全に社長の鶴の一声ですね。私がよく似顔絵を描いていたので、それを缶バッチにして売ったらどうかと。

——似顔絵を描いているのは後藤さん自身なのですか？

■後藤 そうです。

——つまり、絵や似顔絵を描いたりする職種として働かれているということですか。

■後藤 少しずつ絵の仕事もさせて頂いていますが、この企画を作った時には業務内容に含まれていませんでした。もともと営業で入社し、オンデマンド印刷の部署に異動になり、企画制作にも関わるようになってきたのです。

——なるほど。では、いつ似顔絵を描けるということが、周囲に知られるようになったのですか？

■後藤 それは入社してすぐですね。入って初めての飲み会で自己紹介の時、同僚の似顔絵を披露したのがキッカケです。結構ウケました(笑)。

——おお。覚えてもらうには良いやり方ですね。元々、絵を描く仕事をされていたのですか。

■後藤 前職でイラストを描いたり、副業で漫画を描いていました。今もちょうくよく描いています。

——漫画？ それは同人誌ということですか？

■後藤 いえ、グルメ漫画雑誌とか新聞の子供ニュース漫画とか、マンガでわかる資格取得とか、業界紙の四コマ漫画とかですね。

——漫画家さんじゃないですか！

■後藤 いや、今現在漫画の仕事が途切れているので、漫画家と言っていいか……。でも一応『社団法人漫画家協会』

の会員ではあります。

——なるほど、それで似顔絵が上手いんですね。

■後藤 いやいや、似顔絵はまったく関係ありません。そもそも、漫画のうまさとし顔絵のうまさは別物です。どんなに絵のうまい漫画家さんも似顔絵はお断りしている方も多います。当然ですが、逆に漫画の描ける似顔絵師の方も多とは思えませんし。私はただ単に似顔絵を描くのが好きだけです。趣味です。自分自身、似顔絵がうまいとは思っていません。

——似顔絵を描くきっかけは何だったのですか？

■後藤 前職で退職される方に似顔絵入りの色紙を作っていたのです。それが好評で毎回頼まれるようになりました。ところが、そこにリーマンショックのあおりをうけて怒涛の退職ラッシュがはじまったのです。毎月1枚以上描くことが増え、のべ50人以上の似顔絵を描き続けました。

——そんなに！

■後藤 ついには、通常業務より色紙を作る時間が増えていきました。自分で自分のことを「必殺！退職請負人」とか「おくりびと」とか呼んでいましたね(笑)。

——笑えない……。

■後藤 その時、喜んでもらえて、更にまわりにウケたのが影響していると思います。それで、今の会社に入っても、社員の似顔絵を描いたりしたのです。

——今の会社の方は何人ぐらい描かれたのですか？

■後藤 全員描いたので、40人くらいかな？

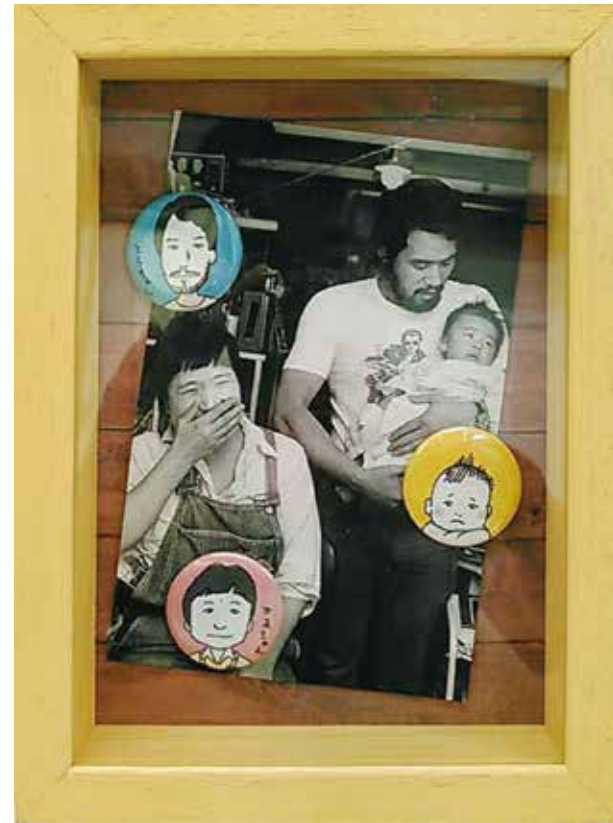
——全員??

■後藤 ハイ、名刺の裏に似顔絵を入れている方もいます。——なるほど、そういう流れがあったのですね。それなら、社長さんもそれを仕事に繋げようと思いますよね。

■後藤 でも、はじめは内心、反対でした。

——それはなぜですか？

■後藤 絵や漫画はとにかく、似顔絵を仕事にするのが抵



受賞作の『似顔絵缶バッチ』

抗あったのです。ぶっちゃけ、自信がなかったのです。

——色紙で喜んでもらえたって言われたじゃないですか。

■後藤 それは無料だし、善意だからですよ。タダだから自由にかけるし、多少似ていなかったり、ふざけ過ぎていても、知っている人で愛情を持って描いているので問題なかったのです。それがお金をもらって、似なかったり気に入ってもらえなかったらどうしようと思ったのです。

——つまり、職業としての似顔絵には抵抗があったということですね。

■後藤 知り合いに似顔絵を描く人がいますが、めちゃくちゃ上手いですからね。それに社内でも、似顔絵が似ていても本人が気に入らないケースが、たまにありました。ものまね芸人がめちゃくちゃ上手な物真似をしてウケても、ご本人だけが「俺ってこんな感じなの～？」と納得いかない様子を昔よくTVで観たけどそれに近いと思います。

——ああ～、昔のものまね番組でそういうシーンありましたね。では、なぜそんな心境でこの企画を進められたのですか。

■後藤 企画自体は面白いと思ったからです。記念に似顔絵缶バッチって、もらうと嬉しいし、思い出にも残る。ダメ元でやってみる分には、別にいいかなとも思いました。あと、やっているうちに私自身の心境の変化もありました。

——というと？



社員全員の似顔絵 (前列中央が稲満社長)

■後藤 買う人が私の絵柄を知って、納得して買ってくれているからです。例えば、タッチを知っているなら、私に劇画風を望んで頼む人はいない。

——ふむふむ。

■後藤 あと、芸人の野生爆弾・くっきー！さんの似顔絵を見て勇気をもらいました。自分のタッチで自信を持って堂々と描き続けられれば、それがブランドになるのだと。

——確かに、くっきー！さんの似顔絵はどんなにひどく描かれてもみんな喜んでいますよね。

■後藤 似顔絵のポイントは作家の個性だと気付いたのです。似ていることは重要ですが、それ以上にこの人のタッチで描かれたいという付加価値が重要だったのです。

——なるほど。

■後藤 今、発展の構想として考えているのは掛け合わせ似顔絵ですね。似てる動物と掛け合わせた似顔絵を描いたり、ロボット化したりゾンビ化したり、その人の趣味を盛り込んだりですね。缶バッチなので、ポップなイラストの方が楽しまれると思うのです。ファッションのポイントとして十分に成り立つし、よく見ると似顔絵にもなっているという……。

——それは良いですね。私も欲しいです。

■後藤 この商品自体、今は販売していませんが、今後また進化させて売り出したいですね。

——期待しています。本日はありがとうございました。

(インタビュー：同社・ハラモトヘラチ)

企画担当の後藤さん



版画と謄写とこれから

第1回：書籍と謄写版とこれから



Atelier 10-48 主宰／版画家 **神崎 智子**

ジヤグラさんにも写真等のご協力いただきました書籍『謄写版のこれまで・これから』という本を制作いたしました(①)。この本を作るにあたって昨年夏、クラウドファンディングを使い、皆様から支援を募りました。今、謄写版が再注目されている気運もあって発行までたどり着くことができ、皆様へお届けできるようになりました。(②)

この謄写版への注目の高まりは、DIY による自主制作が火付け役になっているらしく、その印刷方法としてまず活版印刷が最初に注目されたようです。そうした中で、活版印刷があったら「ガリ版という言葉聞いたことあるけどもなんだろうね」って。これが、謄写版の再注目のきっかけのひとつだそうです。実際私も「ガリ版って何ですか?」というお問い合わせをよくいただき、私のワークショップにもいらっしゃったり。。という状態になってます。

そう言った方々は自主企画・印刷・製本を基本とするZINE (ジン) を制作しています。ZINE とは、独立して発行される、または自費出版される小冊子のことで、現在の一般的なフォーマットはプリントされた文書を折りたたんでホチキスで留めます。歴史的に ZINE は、トーマス・ペインが「コモン・センス」を自費出版し、米国独立戦争に貢献した「思想を広める手段」として使用した 1776 年から存在しています。ZINE カルチャーの自由な精神を示す例です。

印刷方法として今多く利用されているのが「リソグラフ」。この ZINE 製作の高まりは日本だけではなく、世界規模となっています。海外書籍に「リソマニア」(2016 年)という書籍があるのですが、こちらはリソグラフに注目した内容になっています(③)。理想科学工業のリソグラフの ZINE やグラフィックアートのこと、リソグラフの歴史など紹介したりされているのですが、この本でも「謄写版とは何?」ということになりました。これも謄写版が再注目されている理由のひとつです。

書籍『謄写版のこれまで・これから』は版画家・神崎智子による現在の謄写版と版画を繋ぐための「アーカイブ書籍」の位置付けとして製作しました。ですが、日本で起こった謄写版の文化史について「改めて」語るのは私の役目ではないでしょう。

10-48.net を通して私は「謄写版を版画化にする」目標を挙げて活動をしており、道具を入手し検証、そこから今できる版画制作方法の提案を行っています。資材の入手状況から見て今は大変謄写版を制作するのに不利ではありますが、謄写版全盛期の書籍からもわかるように、わりと「創意工夫に満ちた謄写版」でありますので、技術のベースが謄写版であることは前提で、レーザーカッターマシンを使って製版など実験的なことも紹介しています。

ですので、「これから」に注目した内容でこの本は書いています(もちろん技術の検証として「これまで」ののところも必要な事柄であります)。本書はそんな書籍で、日英バイリンガル仕様で製作しています(④)。

私が紹介している謄写版というのは基本的に「ヤスリによる製版」を行っております。恐らく「謄写版はそれを指すでしょ」とお声がありそうですが、そうではありません。謄写版は一口に言ってもいろんな製版方法あって、ヤスリによる製版というのがそのうちのひとつになっています。

日本国外でも謄写版はありまして、英語でミメオグラフと言います。日本ではヤスリ製版を行うのでミメオグラフの「ファイルプレートプロセス」といいます。初めてのヤスリ製版というのは「トリボグラフ」というものになります。これはイタリアのズッカートが作りしました。最初のヤスリ製版と言われているものはこちらになります。イギリスのゲステットナーも「ファイルプレートプロセス」を考案販売しています。日本の堀井が輸入してきたのは、エジソンミメオグラフが基であるのはご周知の通りだと思います(この辺りのお話は後日執筆いたします)。

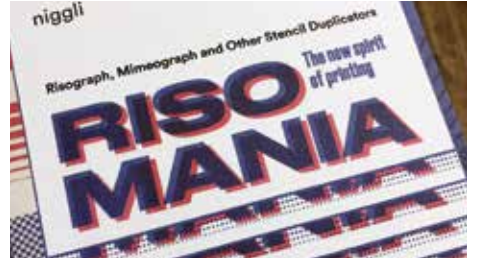
ですが、ファイルプレートプロセスっていう製版方法は、欧米圏では早々にタイプライターによる製版方式に移行し



①書籍外観
購入は <https://1048.shopsselect.net/> で



②クラウドファンディングで資金調達



③『リソマニア』
ジョン・Z・コムルキ著 /2016 年



④日英バイリンガル仕様の本書



⑤ A Brief History of the Mimeograph
ミメオグラフ小史 / 書籍内 P48



⑥展覧会「Druck, Druck, Druck」(独語で「刷る刷る刷る」)の様子。同展開催のイベント the MimeoTakeover (ミメオの継承) では、リソグラフ・ミメオグラフ等の孔版印刷のワークショップや展示を行った



⑦ワークショップの様子。凹凸のあるプラスチックシートを使い、タイプ原紙に製版している



⑧会場の様子
中央にコムルキ氏、右にブロック氏

写真⑥～⑧提供：アーウィン・ブロック

ていった背景があり、“The Origin of Stencil Duplication”という英語圏の謄写版バイブル的書籍があるのですが、日本の鉄ヤスリ製版のことの記述は大変少なく、これ以上の情報というのは海外では全然わからなかった状態です。今でもわからないと思われます。もちろん逆も然りです。これがバイリンガル仕様の動機です。

そんな中、先述の「リソマニア」の著者のジョン・Z・コムルキさんとコンタクトを取ることが出来、今回の私の書籍にもコムルキさんに寄稿していただきました(⑤)。コムルキさんは文を書くだけではなくワークショップをやったり、展示をやったりということも積極的にされています(⑥～⑧)。

欧米圏では輪転機による刷りなので、そういった機械を数台並べてあってっていう感じでワークショップをやっています。この機械を持っている方っていうのがアーウィン・

ブロックさんです。この人が海外の謄写版の今の状態を作った中心人物になってきます。この方、ものすごくモノを所有しています。ゲステットナーキングと自称してるぐらい、それぐらい持ってます。100 台以上のゲステットナー社輪転機を倉庫に入れて、ワークショップの依頼があったら行って、.. というような活動をされています。ちなみにこの書籍でもブロックさんからの写真資料をご提供していただいております、またこの連載でもご協力していただく予定です。

謄写版のこれからを見てみたいという人は続々と集いつつあります。そしてもう一度謄写版について知りたがっているように思えます。

この記事内容は下記でもお話ししています
講演「謄写版のこれまで・これから」
https://10-48.net/report/191116_talks1/



事務局日誌と今後のスケジュール

4月の事務局日誌

- 1日 プライバシーマーク現地審査（秋田）→延期
- 6日 プライバシーマーク現地審査（大阪）
- 7日 プライバシーマーク現地審査（大阪）
- 10日 作品展第一次・二次審査委員会（会館）→中止
- 13日 プライバシーマーク現地審査（福島）→延期
- 14日 プライバシーマーク現地審査（福島）→延期
- 17日 作品展最終審査委員会（会館）→中止
- 20日 プライバシーマーク現地審査（大阪）→延期
- 21日 プライバシーマーク現地審査（大阪）→延期、ジャグラコンテスト部会（ネット会議）
- 23日 定期監査（本部）→沖専務理事・前沢監事
- 24日 拡大理事会（本部／一部ネット会議）、拡大理事会・懇親会→中止
- 25日 SPACE-21 幹事会&総会（リコージャパン(株)名古屋事業所）→延期

5月のスケジュール（5.8現在）

- 11日 プライバシーマーク審査員フォローアップセミナー（日本印刷会館）→延期、ジャグラコンテスト部会（ネット会議）
- 13日 日印産連専務理事連絡会→沖専務
- 15日 東北地協総会／書面会議＋東北地協幹事会（仙台）、シタラフェア 2020 →中止
- 16日 四国地協総会（高知）→中止
- 18日 プライバシーマーク審査会
- 20日 マスターズクラブゴルフ大会（茨城ゴルフ倶楽部）→中止、プライバシーマーク現地審査（神奈川）→中止
- 21日 日印産連理事会（日本印刷会館）→中止
- 22日 北海道支部総会（札幌第一ホテル）→中止
- 26日 プライバシーマーク現地審査（山口）→中止

6月のスケジュール（5.8現在）

- 5日 ジャグラ文化典高知大会記念ゴルフ大会・ウェルカムパーティ→中止
- 6日 ジャグラ文化典高知大会セミナー・マスターズクラブ総会・定時総会・記念懇親会→中止
- 7日 ジャグラ文化典高知大会エキスカーション→中止
- 11日 関東複写センター協同組合通常組スカイ懇親会（都内）
- 26日 ジャグラ委員長会議・拡大理事会

事・務・局・便・り

コロナ禍の影響で「ジャグラコンテスト InDesign」の中止が決まりました。とても残念ですが、その代わりに DTP オペレーター向けの技術試験制度を検討しています。ジャグラコンテストは TOP の技量を競うものですが、この試験はオペレーター経験数年から中堅の方を対象としたもので、より多くの方が参加しやすい内容です。どうぞ期待ください。そして、「ジャグラ年賀状デザインコンテスト」は例年通り募集中です。来年の干支は丑年です。コロナに負けない素晴らしい作品をお待ちしています。(K.N)

月刊
グラフィックサービス
No.822
2020
05

月刊『グラフィックサービス』822号

■発行日 令和2年5月10日（毎月1回）
 ■発行人 中村 耀
 ■編集人 早坂 淳
 ■発行所 一般社団法人
 日本グラフィックサービス工業会 略称ジャグラ
 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町 7-16
 TEL 03-3667-2271
 FAX 03-3661-9006
 WEB https://www.jagra.or.jp/



ジャグラは一般財団法人日本情報経済社会推進協会指定のプライバシーマーク指定審査機関です

■編集部 メール edit@jagra.or.jp

◎原稿／編集／校正

沖 敬三 守田 輝夫 長島 安雄
 酒井 玲子 並木 清乃 阿部奈津子
 今田 豪（以上、ジャグラ事務局）
 斎藤 成（東京グラフィックス／広報委員）
 藤尾 泰一（㈱インフォ・ディー／広報委員）
 日経印刷(株)（校正のみ）

◎渉外 守田 輝夫

◎広告 酒井 玲子

◎Web 阿部奈津子

◎組版／デザイン ㈱インフォ・ディー

組 版 = Adobe CS6/CC ほか
 フォント = モリサワ OTF ほか

◎製版／印刷 日経印刷(株)（東京・千代田支部）

RIP = 大日本スクリーン Trueflow
 CTP = 富士フイルム XP-1310R
 刷 版 = 大日本スクリーン PT-R8800ZX
 印刷機 = ハイデルベルグ社 SM102-8P
 インキ = DIC
 用 紙 = 三菱ニューVマット FSC-MX 菊判 62.5kg

※本誌はFSC森林認証紙（管理された供給源からの原材料で作られた紙）とLED-UVインキ（リサイクル対応型）を用い、環境に配慮した印刷工場で生産されています。https://www.nik-prt.co.jp/

Copyright 2020 JaGra / 禁無断引用

※本誌記載の製品名は一般に各メーカーの登録商標です。
 また、原則 TM・®マークは省略しています。
 ※乱丁／落丁本はお取り替えます。

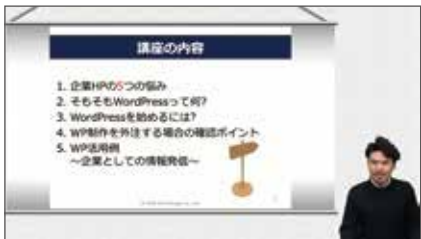
2020年5月号
ジャグラBB HOT NEWS

ジャグラBBなら在宅でも学べます！▶最新情報はWebをチェック <https://www.jagrabb.net>



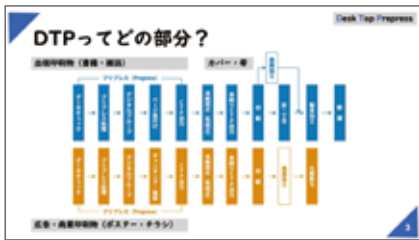
新・ビジネスマナー入門
【プレ公開版】1～2

新社会人のビジネスマナー教育に役立つ新番組「新・ビジネスマナー入門」の配信が近日スタートします。正式公開に先駆け、今回第1章～4章を先行配信！ 新人教育に今すぐご利用ください。
 時間:38～57分 会員限定番組



WordPress初級講座
『ワードプレスって何ができるのだろう?』

誰でも無料で利用できる人気のウェブ作成ツール「WordPress」。本番組では、WordPress初心者の方に向けて、WordPressとは何か、どんなことができるかをわかりやすく解説します。
 時間:59分10秒 会員限定番組



影山史枝の印刷・DTP基礎講座2020
(1)～(4)

影山史枝先生による最新の印刷業界・DTP事情、情報を反映させたDTP基礎講座がスタートしました。印刷会社の新人教育に最適な番組です。
 時間:20分～1時間10分
 (1)のみ無料、その他会員限定番組



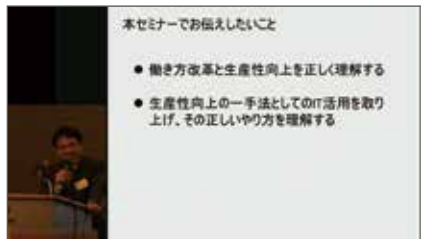
生産性向上は働き方改革であり経営改善である 講師:稲満信祐氏

2019年11月開催ジャグラ全国協議会セミナー。イナミツ印刷・稲満信祐氏を講師に迎え、それまで赤字体質だった自社を社長就任後にV字回復させるまでの取り組みについてお話しいたしました。
 時間:42分52秒 会員限定番組



「ビジコン!2019」
入賞作品プレゼンテーション

東京グラフィックス主催「ビジコン!2019」のファイナルプレゼン大会が2月17日に開催され、入選者によるプレゼンテーションが行われました。その模様をお届けします。
 時間:1時間26分 無料番組



生産性向上のための『気づき』と『工夫』 講師:中高英明氏

2019年11月開催ジャグラ全国協議会セミナー。中小企業診断士・中高英明氏を講師に迎え、働き方改革と生産性向上を実現するために企業が取り組むべき事柄についてお話しいたしました。
 時間:1時間29分 会員限定番組

動画募集のご案内

ジャグラBBでは「ワザコレ!」「インサツノオト。」で配信する投稿映像を募集しています。自社で編み出した仕事の裏ワザ、自慢の印刷機を動画で紹介してみませんか？ 採用された方には1000円相当の商品券を進呈します。

ワザコレ!動画応募方法

簡単な内容説明、動画の長さ（撮影編集済の場合）をご記入の上、ジャグラBB企画部会までメールでご連絡ください。追って担当者よりご連絡します。
 応募先メールアドレス:jagrabb@jagra.or.jp



スマホで簡単登録&視聴！ジャグラBB 新規ID登録はこちらから
https://www.jagrabb.net/app_mail.php



Assist Your Potential

— 技術力と創造力で、あなたの可能性を支援する —

品質検査

濃度追従

見当調整

— ^み 視て、判断して、制御する —

PQS-Dがあなたの眼になる。

損紙を減らすことが求められる刷り出しの見当調整。
本刷り中の印刷障害や濃度変化に気を遣い、印刷物と
ずっとにらめっこ。神経をすり減らし、息つく暇がない
のが今の印刷現場です。

RMGT の印刷品質管理システム PQS-D は印刷機上の
CCD カメラがあなたの眼となり、刷り出しから刷り
終わりまで、絶え間なく印刷物を監視しつづけます。
品質検査はもちろん、濃度追従や自動見当調整の機能
が、オペレーターを^{たす}援けます。



印刷機上の CCD カメラが印刷中の用紙を監視

RMGT ともに、世界へ彩りを。

リョービMHIグラフィックテクノロジー株式会社
〒726-0002 広島県府中市鵜飼町 800-2 TEL 0847-40-1600
<https://www.ryobi-group.co.jp/graphic/>